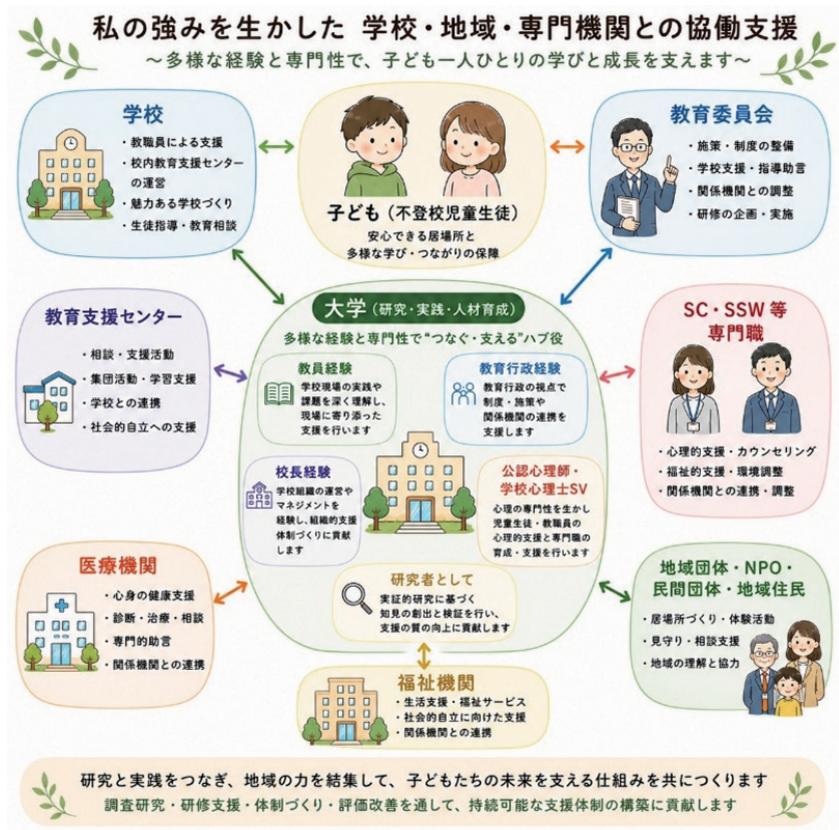


学校・地域・専門機関の協働による不登校児童生徒の支援体制構築

研究の概要

不登校児童生徒数の増加を背景として、学校だけで課題を抱え込むのではなく、地域社会や専門機関との協働による包括的な支援体制の構築が求められている。本研究では、学校、教育委員会、教育支援センター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、医療・福祉機関、地域団体等が連携した不登校児童生徒支援の在り方について実証的に検討している。特に、別室や校内教育支援センターを活用した支援体制の構築、教職員と専門職との協働プロセス、コーディネーターの役割、児童生徒の心理的居場所づくり等に着目し、質問紙調査、インタビュー調査、事例分析等をおして研究を進めている。研究成果を基に、多様な関係者が協働して子どもの学びと成長を支える地域協働型不登校児童生徒支援モデルの開発を目指している。



研究の特徴

本研究は、学校現場での豊富な実践経験を基盤として、教育・心理・福祉の多職種連携に焦点を当てている点に特徴がある。個々の児童生徒への支援だけでなく、学校組織全体の支援力向上や地域における支援ネットワーク形成を視野に入れている。また、学校内外の専門職や関係機関との協働を促進するための具体的な方策やコーディネート機能について実践的な知見を提供できる。自治体や教育委員会との共同研究、教職員研修、支援体制評価にも対応可能である。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

学校や教育委員会、教育支援センターと連携し、不登校児童生徒の支援体制整備や校内教育支援センターの運営支援、教職員研修、地域ネットワーク形成に関する調査研究を実施している。

研究者からのメッセージ

学校・地域・専門機関が連携した不登校児童生徒支援の体制構築に関する共同研究や実践開発を歓迎します。子ども一人一人の社会的自立とウェルビーイングの実現に向け、地域とともに支援モデルを創出したいと考えています。

研究情報：<https://researchmap.jp/7bei>

研究分野：臨床心理学、生徒指導、教育相談

研究者の所属部局・職位・氏名：和歌山大学教育学部 教職大学院・教授・中川靖彦

本件に関するお問い合わせ：liaison@ml.wakayama-u.ac.jp